

令和3年度 学校教育自己診断 [報告]

【教職員用】・【保護者用】・【児童生徒用】 令和3年11月実施

報告日：令和4年2月18日

大阪府立中央聴覚支援学校

令和3年度学校教育自己診断報告

学校教育自己診断は、学校の教育活動が幼児児童生徒の実態や保護者の学校教育に対するニーズ等に対応しているかどうかについて、アンケートに基づいて診断し、本校教育改善のための方策を明らかにするものである。

本校では、平成30年度、令和元年度の診断アンケートにおいて、「そう思うところもある」と肯定とも否定とも取れる選択肢を設けていたため、令和2年度から、その選択肢を外し、平成29年度と同じ5項目（肯定、否定、分からない）に戻した。令和3年度も昨年度同様引き続き選択肢は5項目としている。そこで今年度も令和2年度と同様、「そう思う」「だいたいそう思う」を肯定的評価、「あまり思わない」「思わない」を否定的評価として、今後の方策について検討する。

1 教職員アンケートについて（項目3は今年度新規追加項目。）

今年度は、前年度比較ができる項目では、項目5. 6. 11を除いて、肯定的評価がいずれも前年度を上回った。各項目の肯定的評価が増えた要因としては、昨年度は新規業務として新型コロナウイルス感染症対策を行わなければならなくなり相当の混乱があったが、今年度は一定の経験を得て、明確な教育活動を取れるようになったこと、また分掌の再編を行うことにより業務の見直しをはかりつつあることが考えられる。なお、項目5. 6については肯定的評価が、前年度比較では、それぞれ2%、1%の減少であるため、評価としては昨年度同様と考えて良いだろう。

肯定的評価自体は全体的には増えているものの、選択肢項目のうち「1. よくあてはまる」のパーセンテージが項目2、5、6、7、8、9、10、13において前年度より低くなっており、より積極的な肯定的評価は減少していることが特徴的である。この傾向については、生徒・保護者アンケート結果からは高い評価を得ているので、教員は結果や成果をより確かなものとして実感し、自信を持って今後の教育活動に取り組めるとよい。

なお、個別に分析した以下の各項目の左に記した◎○△は、各項目の肯定的評価度を表している。◎ー肯定的評価がとても高い。

○ー肯定的評価が高い

△ー肯定的評価が前年度より減少した。

- ① 項目1 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っているか」
項目12 「人権を尊重し、日常の教育活動を行っている」 (◎)

この2つの項目では、「よくあてはある」、「あてはまる」の肯定的評価が共に前年度より増加している。この点については、児童生徒アンケート項目3とも関連しており、そのアンケート結果も肯定的評価が増加しているところである。教職員間の日常からの連携や人権意識の高まりは非常に重要な要素であるため、今後も引き続き向上を目指したい。

- ② 項目2 「学校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 (○)

昨年度より肯定的評価が6%増加している。本校では、まず「学校経営計画」において学校としての教育目標を明示し、各教員はこれをもとにして日々の教育活動に取り組んでいる。「学校経営計画」は年度途中で中間評価を行い、進捗状況を皆で確認を行い、年

度末に最終評価を行っている。そして、この最終評価を基にして次年度の学校経営計画を策定している。肯定的評価のさらなる増加に向けて、各教員においても、こうした PDCA サイクルを意識し、自身の実践を常に評価・改善しながら、教育実践の充実を目指していきたい。

③ 項目 3 「学校は諸活動において防災に関する取り組みや安全指導を行っている」(◎)

項目 3 は今年度新規新設項目である。近年、東南海トラフ地震への警戒が高まるなど防災についての備えは各校において最重要課題の 1 つとなっている。本校は SPS 認証を受けるなど防災等に向けた教育についても力を入れているところであるため、この項目を新規追加した。肯定的評価は 90% であり、教職員のこの問題に対する意識の高さが確かめられた。今年度においては、各部における防災関連教育を取りまとめ、防災教育カリキュラムを作成し、避難訓練の内容を工夫するなどしており、そうした取り組みから意識も向上していると考えられる。

④ 項目 11 「私は、前年度より必要な視覚支援や ICT 機器を活用した授業を行い、専門性を向上させることができた。」 (△)

項目 11 では肯定的評価が前年度より減少している。これは新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業実施準備、また GIGA スクール構想による幼児児童生徒一人 1 台端末配備に伴う今後の ICT 関連授業のあり方、本格的に運用が開始された Google for Education の使用について不慣れで、明確ではない面があることが理由と考えられる。また、そもそも必要とする ICT 機器不足もあり、十分な活用ができなかった面もあると考えられる。今後の教育活動において視覚支援や ICT 機器を活用した授業は非常に重要な事柄であるとともに、次年度も新型コロナウイルス感染症対策は引き続きと予想されることから、指導者としての専門性の向上をはかるため積極的な研修等の実施、機器の充実を進めていく必要がある。

⑤ 項目 13 「学校には、管理職と教育活動について話ができる機会や場がある。」 (○)

項目 13 では、肯定的評価が 54% であった。昨年度より 15% 上昇している。日頃より管理職は授業見学、校内巡回を行うと共に、様々な諸意見を丁寧に受け止める姿勢を示しているところである。今後も教職員の想いが管理職に伝わるよう組織づくりにより努めていく。

来年度は、幼児児童生徒数が今年度よりさらに減少することが予想されており、それに伴い教職員数も減少するため、引き続き各学部間の連携を密にする、業務の偏りを見直すなどし、教職員の負担軽減をはかることも重要課題である。分掌業務については、今年度再編を行い、改善に向けた取り組みを始めた。今年度の再編については、分掌業務が明確になったなどと言う意見もあり、おおむね肯定的である。しかし、一部の分掌においては負担が大きいところもあるため、業務分担についての見直しは引き続き次年度以降も改善に取り組む必要がある。

2 保護者アンケートについて

今年度は昨年度からの比較では大きな変化は見られず、学校での活動を概ね肯定的にとらえてもらっていると考えられる。

① 項目2 「お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」 (△)

項目2では肯定的評価が8%減少している。その分、「あまり思わない」が6%増加している。引き続き視覚教材やICT機器の活用推進、また授業が分かりやすく、楽しいものになるようより工夫を行っていくとともに、保護者にも丁寧な説明を行っていく必要がある。

② 項目8 「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 (◎)

項目8では、昨年度に比べて「よくあてはまる」が11%増加している。今年度は、感染対策を進める中、参観等が条件付きではあったが実施できたことによるためであろう。今後も、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら適切な対策を取りながら、学校行事を実施していきたい。

③ 項目9 「学校や先生たちは、お子さんの障がいについてよく理解している」

項目10 「学校や先生たちは日常の教育活動において、お子さんの人権を十分に尊重している」 (◎)

「よくあてはまる」と回答した割合が、項目9では8%、項目10では12%増加している。肯定的評価は、いずれも昨年度と総量では変わらないが、否定的評価が減少し、積極的な肯定的評価が増加している。引き続き障がい理解や人権を大切にした指導に取り組んでいく。

3 児童・生徒アンケートについて

例年と同様に肯定的意見が多い。

① 項目1 「学校に行くのが楽しい」 (○)

項目1では、肯定的評価が3%増加した。今後も子ども理解を深め、子どもたちの気持ちに寄り添った教育活動に取り組んでいく。

② 項目2 「授業が分かりやすく楽しい」 (○)

項目2では、肯定的評価は変化ないが、「そう思う」というより積極的な肯定が11%減少した。これは保護者アンケートの項目2とも関連していると考えられる。引き続き視覚教材やICT機器の活用推進、また授業が分かりやすく、楽しいものになるようより工夫を行っていく必要がある。

③ 項目3 「先生は私たちのことを大切にしている」 (◎)

項目3では肯定的評価全体では2%増加しており、そのうち積極的な肯定評価は、8%増加している。教員アンケートでも、この関連項目は肯定的評価が増加している部分である。項目1と同様に、今後も子ども理解を深め、子どもたちの気持ちに寄り添った教育活動に取り組んでいく。

④ 項目4 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 (△)

項目4では肯定的評価は60%あるが、肯定的評価は3%減少している。否定的評価はほぼ変わっていないことから、キャリア教育は、全学部、学年で授業や特別活動の中で取り組んでいるが、その活動の目的を子どもたちにより明確に伝え、理解をさらに深められるようにさらに取り組んでいく。

⑤ 項目7 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」 (△)

項目7では肯定的評価が10%減少している。命の大切さや社会のルールについての指導は、教科学習時はもちろん学校生活におけるあらゆる機会においても指導している事項である。そのため、現在取り組んでいる学習内容にどのような意味やねらいがあるのかを、丁寧に説明しながら、引き続き人権や一人ひとりを大切にした教育を推進していく。

⑥ 項目9 「先生の手話や指文字などは分かりやすい。」 (◎)

項目9では肯定的評価が昨年度より9%増加した。引き続き、今後も継続的に研修会等を開催し、教職員の手話の技術向上に努めるとともに、子ども一人ひとりの理解力、実態に応じた表現方法の工夫をさらに積み重ねていく。

⑦ 項目10「先生は私たちの障がいについてよく理解してくれている」 (◎)

項目10では肯定的評価が13%増加している。この増加率は今年度の児童生徒アンケート中では最も大きい増加である。引き続き一人ひとりの子ども達を大切にし、それぞれのニーズに寄り添った教育を進めていきたい。

4 教職員・保護者比較について

教職員アンケートと保護者アンケートの質問項目のうち、内容が近い項目について比較検討したものを記載する。

① 進路指導に関する項目

進路指導について、教職員の肯定的評価が8割弱であるのに対し、保護者の肯定的評価は6割強と約2割の差が出ているが、これは昨年度と同様である。各部の内訳を見ると幼稚部、小学部の保護者に肯定的評価が少ない特徴がある。こうしたことから、低学年では、進路問題についてはまだ先のこととして捉えているためと考えられる。そのため、幼稚部、小学部の頃から、将来の進路や職業に対する具体的

な情報提供を行うことや、幼小中高一貫校である本校の強みを生かし、保護者には全校行事時に他学部を積極的に見学していただく機会を提供し、子どもの成長過程について理解を深めていただくよう促していきたい。引き続き、保護者が望む情報を提供できるように、個別懇談会、見学会等でより具体的な情報を提示するなど、今後も保護者の想いに寄り添い、取り組んでいく必要がある。

② いじめに関する項目

いじめに関する指導については、肯定的評価は教職員、保護者とも8割弱であり差がない。いじめ問題に関しては、外部専門家による研修を取り入れるなどして、さらに積極的に取り組み、子ども間の小さなトラブル等を察知する力を伸ばすとともに、教職員が組織的に対応できる力を伸ばしていきたい。また、いじめ問題に関連する教育は、教科学習時、総合的な学習や道徳、生活指導時等はもちろん、学校活動の全ての場面で指導を行っているが、そのような学校としての取り組みを保護者に情報提供していきたい。

③ 教育情報に関する項目

教育の情報提供について、教職員の肯定的評価が6割強であるのに対し、保護者の肯定的評価は8割弱と高く、昨年度と同様である。何かあった際の電話等での連絡など担任からの細やかな連絡が保護者につながる大切な情報であるという理解を教員一人ひとりが深めるとともに、日々の連絡帳や学年だよりをはじめとする学校からの様々な便りなどの組織としての情報も充実させ、保護者とより連携して教育活動を進めていきたい。

④ 障がい理解に関する項目

障がい理解について、教職員、保護者とも肯定的評価が8割～9割であった。今年度は特に教職員の「あてはまる」が20%増加している。より積極的な肯定的評価を期待したいところである。引き続き校内外の研修機会や研究会等の紹介などを通して理解を深めていきたい。

⑤ 人権に関する項目

人権尊重について、教職員、保護者とも肯定的評価が8割～9割であった。保護者において、「よくあてはまる」が12%増加している。引き続き今後も子どもたちの人権を尊重した教育活動を行っていく。